

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第30号 2010年9月30日発行 発行；麻生多摩美の森の会
発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

森の恵みでイベント - 秋の催し物のご案内 副会長 長澤

今年の夏は、暑さが厳しくまた雨量が極端に少ない天候が続いたことより、草木や作物も水を求めている状況ですが、森の作業は順調に進み、畑の里芋・さつま芋なども元気に育っています。

季節はいよいよ実りの秋。森づくり・畑づくりの成果を活かし、麻生区市民健康の森では、今秋も盛り沢山の催しを予定しています。

私たちは、森の活動の中で地域の子供たちと交流を深め、次世代の人達に伝承していくなど、子供たちとの関わりを重要視しています。森の豊かな恵みを利用して、子供たちの感性を磨き、豊かな心を育むために森での学習を計画、支援します。

1. 西生田小3年生「そばと麦の体験学習」

9月29日(水)、30日(木)。各日午前、サポーター各日12人程度。

そばの学習 プロのそば打ち見学、そば畑で収穫をし、そばの実の学習、そば茶の試飲。

そば打ち見学の後、森の小さな畑でそばを鎌で刈り取り、実を砕き、そばの学習を行います。

麦の学習 麦の種類について学習、大麦を煎って麦茶を作る、麦茶の試飲。

森の畑で収穫した各種の麦を活用して、ゲームを交えて麦についての学習を行います。

2. 西生田小3年生「冬の森の体験学習」

11月30日(火)。午前、サポーター12

人程度。

冬の森学習 冬の植物「種の旅立ち」、冬の森を写生しよう、ネイチャーゲーム。森を舞台に、種(実)の不思議やゲームを通して森の生物多様性を学習します。

3. 西生田小5年生「森で環境体験学習」
12月13(月)14日(火)。各日午前中、サポーター各日10人程度

学習内容 樹木の大切さと役割、当森の活動、堆肥作り、森を散策し環境を体験、樹木の二酸化炭素吸着量の測定。

森・緑が環境改善にどのように有効であるか、樹木と二酸化炭素との関係を学習します。

4. 麻生プレーパークの開催

10月16日(土)、2月23日(土)。主催は、麻生プレーパークを創る会。親子ともども森で1日遊びます。

5. 第10回 植樹祭 & 収穫祭

11月7日(日) 9:30~13:00

麻生区市民健康の森の最大のイベントです。樹木の観察と記念植樹を行い、収穫・感謝祭を野外料理と音楽で祝い楽しく交流します。地域の皆様を始め多くの方々のご参加をお待ちしています。

年末作業納めは12月29日(水)、新年作業始めは1月8日(土)です。

以上、いずれも安全にじゅうぶん留意し事故のないように行って行きたいと思えます。皆様方のご協力宜しくお願い致します。

「川崎・多摩美の山トラスト基金」のご案内 同基金代表 岡村 克彦

「多摩美の山トラスト基金」は9月10日現在、会員数31名、基金募金者188名、募金額¥1,539,202となっています。昨年7月、会の発足に当り、逸早く「麻生多摩美の森の会」のご賛同を得、11月の説明会や春の自然観察会、さらに8月の森での「おと絵がたり」上演に際して積極的なご協力をいただき、深く感謝しております。

私たちが「多摩美の山」と呼んでいるトラスト対象地は、市民健康の森(1.5ha)と多摩自然遊歩道を中心として、東に多摩特別緑地(5.5ha)、西にふれあいの森(0.8ha)、細山・大久保特別緑地(0.5ha)、そして南に今春、新適用基準第1号として指定された多摩美特別緑地(0.1ha)などの繋がった緑の塊を指しています。さらに東に日本女子大西生田キャンパスの森(30ha)、北によみうりランドへと繋がっています。

この多摩美の山には、キンラン、エビネ、タマノカンアオイなどの絶滅危惧種を含めて約300種の植物と、きのこ、昆虫、鳥類なども多く、豊かな生態系を保っているため、「川崎市緑の基本計画」では、市民の貴重な自然環境資源であると評価されています。

この緑の資源を保護し保存してゆくことが「多摩美の山トラスト基金」の目的です。

しかし、進行止まない虫食い開発からこれらの緑を守り、次世代へ残して行くためには、新しい公共事業方式として、先ず市民の行動による熱意表明と、行政との連携が大切です。そこで、目的達成のために行政と相談・協議しながら協働で使用する市民主体の「トラスト(信託)基金」を設立しました。

“トラスト”とは、百余年前、英国の市民が開発から自然や建物を保護・保存するため

に、「ナショナルトラスト」の名で全国民に呼びかけた募金活動で、その時の合言葉は、「一人の1万ポンドより1万人の1ポンドを」でした。

この基金は二瓶 敏(専修大名誉教授)委員長以下3名の会員外委員を含む5名の管理委員で厳重に管理され、会報をはじめ会議や、マスコミに実績報告されています。

これからの活動として最も重要なのは、この多摩美の山の大切さ「保存価値」をより広く多くの方々に理解していただき、トラスト基金にご協力していただくことです。そのために、生物多様性調査や四季折々の自然観察・勉強会、さらに新しい里山の恵みを利用する様々な企画を実施する予定です。また一方、土地所有の実態や開発情報の収集に努めて、「みどり」の破壊を未然に防いで行く必要があります。その名の通りに、多摩丘陵の美しい里山を子どもたちのふる里として保全できることを願っております。

「秋の自然観察とTシャツ作り」のご案内

10月31日(日)開催。観察ウォーキングに参加の方は、9時45分小田急線・読売ランド前駅北口に集合。お昼は自然観察指導員の高橋英さんと植物トーク(弁当各自持参)。午後は、葉っぱなどを押し花風にして作るオリジナルTシャツ作り。

.....(連絡先:須田 044-955-1160)



私たちが保全している森と森を繋ぐ斜面地や小道沿いは、多様な草木が育ち、鳥たちも移動に使う「自然の回廊」。大切にしたい。写真は崖に咲くハンショウヅル、5月。(木村)

沈む前の金星や土星を見る

オーロラ天文台 小川 誠治

8月7日(土)、夏恒例の麻生区市民健康の森を会場とする「夏の星空を楽しむつどい」が、オーロラ天文台・渋谷星の会の主催で行われました(右下写真)。当日は、やや雲があったものの、透明度にも恵まれて星たちを次々に見ることができました。

今回の目玉は、金星と土星です。明るいので薄明時から見えています。しかし、当地からはこの日の両惑星は西空低くにあって見えにくく、しかもその方向に樹木が伸びて来て邪魔となり、いつ沈んで見えなくなるかもしれない状態で、ギリギリの時間勝負でした。また、なるべく見やすくするため2台の望遠鏡を比較的高台の健康の森出入り口付近に急遽移動しました。精密機械の望遠鏡は移動には細心の注意が必要であり、本当は移動したくないのですが、やむをえません。

その結果、金星の欠けている姿や、土星の環をお見せすることができました。土星の環は09年真横になって見えなくなり、再び見えるようになった直後の珍しい形です。

このほか、七夕の星、ミザール、アンタレス、アルクトゥールス、はくちょう座の二重星アルビレオなどを入れましたが、行列が出来る盛況ぶりでした。

お待ちいただいている間に、参加された約120人の皆様に、北斗七星のしっぽの部分の星ミザール、北極星、夏の大三角などなどを解説し、参加者に一緒に探してもらったところ、嬉しいことに質問が続出しました。

このつどいのことが、神奈川新聞や東京新聞で事前に大きく報道されたため、有り難いことに記事をご覧になって来られた方が20人以上もおられました。また、ラジオ日本の「ヨコハマロハス」という番組に電話で生出演し、お話をさせていただきました。

この会の企画に全面的なご協力をいただいた、麻生多摩美の森の会、若葉町会、川崎・多摩美の山トラスの会の皆様、そして広報にご尽力を下さった多摩美地区各町会の皆様に心から御礼申し上げます。

なお、次回は来年1月下旬から2月初旬で、冬の星空を見たいと考えています。

多摩美の森の小鳥 中村 浩

多摩美の森および周辺の森では、多くの小鳥を見かけることができます。

一年中見られる小鳥は、コゲラ(小型のキツキ)・ウグイス・四十雀・メジロ・ヒヨドリ・ムクドリ・キジバト・コジュケイ・画眉鳥(特定外来生物)など。また、夏場には、ホトトギス・クロジなど、冬場には、アオジ・ホウジロ・シメ・ヤマガラ・エナガ・ジョウビタキなどを見ることができます。

小鳥が多くいるということは、小鳥の住める良い環境であるということ。じゅうぶんな餌があり、翼を休め・姿を隠す木々があるということです。一口に小鳥の餌と言っても、木の実、幼虫・成虫、新芽、地上採食など小鳥によってまちまちです。動植物の多様性があるからこそ小鳥たちも生息できます。

秋になり木の葉が落ちると、小鳥を見つけやすくなります。そんな多摩美の森で日向ぼっこをしながらバードウォッチングをしてみませんか。

森で「おと絵がたり」 副代表 中尾 順子

影絵をOHPで大きく投影し、「音と絵と語り」で地元の昔話などを演じます。8月7日、美しい夜空の星の下で、広場の藤棚にスクリーンをピンと張って、素敵な野外ステージをつくらせていただき、上演しました。

『多摩川のフクロウ』は、フクロウや等々力の弁天様が出てくる昔話。暗闇の森からお囃子が聞こえてきたのは、いいタイミングでした。

『花咲かじい』では、シロのかわいい声や意地悪ばあさんの声も人気でした。

OHPの光にカブトムシやカナブンも集まって、野外ならではの公演となりました。



里山フォーラム in 麻生だより

副代表 長 澤

麻生区より「麻生里地・里山保全推進事業」を委託され活動している市民活動団体「里山フォーラム in 麻生」があります。その活動の一つとして「里地里山ナチュラリスト入門講座」が開催されています。

<開催日程・主内容と講師陣>

- 1回目 9月1日(土) 9:30~14:30
基調講演・岡上地域の水踏査 堂前雅史教授
- 2回目 9月18日(土) 9:30~12:30
竹の学習 平石真司・関根秀樹・友部常松
- 3回目 9月23日(木) 9:30~12:00
センスオブワンダー 高柳芳恵
- 4回目 10月9日(土) 9:30~12:30
自然観察の目・作業の目 岩田巨生・芳美
- 5回目 10月24日(日) 9:30~12:00
水辺の生き物 堂前雅史・鶴見川流域ネット
- 6回目 11月20日(土) 9:30~12:00
麻生の地層と地形 増淵和夫
- 7回目 12月5日(日) 9:30~13:00
野外で調理 関根秀樹・山田美智子
- 8回目 12月23日(木) 9:30~14:00
神奈川の在来野菜 成松次郎・高橋清行
- 9回目 1月8日(土) 9:30~12:00
野鳥観察 瀧 孔一郎
- 10回目 1月29日(土) 9:30~12:00
里地里山作業とコミュニティ 萩原 哲・間野 洋
- 11回目 2月12日(土) 9:30~12:00
循環する里地里山 小泉清 早野聖地ボランティア
- 12回目 3月19日(土) 9:30~12:00
柿生の春の植物観察 高橋 英

以上、講座はすでにスタートしていますが、まだ余席があるかも知れません。詳しくは下記へ照会ください。

080 - 6787 - 4123

メール ; satoyamaforum@gmail.com

平成 23 年 3 月 5 日 (土) 10 : 00 ~ 16 : 00
に第 10 回里山フォーラムが開催されます。

今後の活動予定 副会長 中谷一郎

今年の夏は猛暑日が記録更新だそうで森での草取りが大変でしたが、早いもので1年の中で最大のイベントの植樹祭&収穫祭が11月にやって来ます。今回は第10回目ですので記念になる行事にしたいと思います。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 10月 2日(土) カブト虫のお宿準備、草刈り、清掃、植樹祭&収穫祭準備
- 10月16日(土) プレーパークの協力
- 10月17日(日) サツマイモ、サトイモの収穫、植樹祭&収穫祭第3回実行委員会
- 11月 6日(土) 植樹祭&収穫祭準備
- 11月 7日(日) 第10回植樹祭&収穫祭
- 11月21日(日) 麦の播種
- 11月30日(火) 西生田小学校3年生の総合学習、種の旅立ち
- 12月 4日(土) 樹木と畑の手入れ、草刈り
- 12月13日(月) 14日(火) 西生田小学校5年生の環境体験学習
- 12月19日(日) 樹木の手入れ、下草刈り など

またこの間の補助作業日は第2、4水曜日で、10月13日、27日、11月10日、24日、12月8日、22日です。10月~5月の作業時間は10時~12時となります。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費 1,000 円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com